

旧脇本陣柳屋旅館建造物群

江戸時代、本町には約50軒の旅籠が軒を連ね、大名や幕府の役人が宿泊する本陣、脇本陣が置かれていました。旅籠街として栄えた本町の面影を今に伝えるのが「旧脇本陣柳屋旅館建造物群」です。

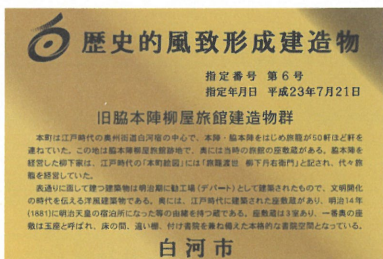
脇本陣柳屋の蔵座敷は文化元年(1804)の建築で、明治14年(1881)、明治天皇が東北・北海道を巡幸した際に、ここを休憩所(往路)・宿泊所(復路)として利用しました。内部には、違い棚、床の間、付書院などを備えた書院造の座敷があり、つるべ井戸(明治天皇が使用)も残されています。

蔵座敷の建物は平成26年に市へ寄贈されましたが、老朽化や東日本大震災の影響により損傷がみられたため、平成27年8月から平成30年3月にかけて修復工事が行なわれました。

蔵座敷略年表		
和暦	西暦	出来事
文化元年	1804	棟上(6月)
明治10年	1877	白河大火(4月)
明治14年	1881	明治天皇の宿泊所等に使用(8月、10月)
明治15年	1882	白河大火(3月)
平成23年	2011	歴史的風致形成建造物指定(7月)
平成27年	2015	修復工事着手(8月)
平成30年	2018	修復工事完成(3月)

歴史的風致形成建造物とは

白河市歴史まちづくり計画で定める重点区域内において、地域の歴史的風致を形成し、さらに良好な歴史的風致を高めるために必要かつ重要と認められる建造物を「歴史的風致形成建造物」に指定し、保全していく制度です。



脇本陣とは

勅使や公家、大名、幕府の役人などが公用で泊まる宿が本陣で、それに準ずる宿を脇本陣といえます。施設の格式としては本陣に次ぐもので、一般の旅籠(宿屋)よりも高い格式を備えていました。

柳屋は奥州街道白河宿の脇本陣です。戊辰戦争白河口の戦いの際は新選組隊士も滞在した記録があります。

明治天皇の明治14年(1881)の巡幸では、柳屋の蔵座敷が休憩所・宿泊所として使用されました。

蔵の機能・役割

建物の構造は土蔵造で、柱などを土壁で覆いさらに壁の表面を漆喰で仕上げています。この構造は、火事の際に延焼を防ぐ効果があり、小峰城下では敷地の西側に土蔵が置かれ、西側から吹く風による延焼に備えていました。屋根は土入り置屋根と呼ばれる造りで、これも火災の延焼に備えたものです。

利用案内

開館時間 見学 10:00~16:00
貸館 8:00~20:00(事前にお申し込みが必要です)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
年末年始(12月28日~1月4日)

見学 無料
◆貸館利用時には、見学をお断りする場合があります。

貸館 有料

区分	1時間当たり		
	10:00~16:00	左記以外の時間	
蔵座敷	和室1	300円	360円
	和室2	320円	380円
	玉座の間(北側庭園を含む)	360円	430円
	全室(北側庭園を含む)	680円	810円
東側庭園	410円	490円	
蔵座敷全室(北側庭園を含む)及び東側庭園	890円	1,060円	
申込受付期間	利用の3か月前から7日前まで	利用の3か月前から1か月前まで	

※ご利用形態により使用料が変わる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

アクセス 福島県白河市本町66番地



お申し込み・お問い合わせは…

株式会社 楽市白河

〒961-0905 福島県白河市本町2番地

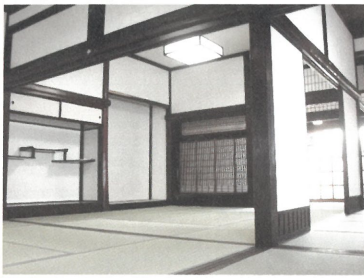
TEL 0248-27-1448

<http://www.rakuichi-shirakawa.co.jp/>



蔵座敷
kura
座敷
zashiki

旧脇本陣柳屋旅館建造物群



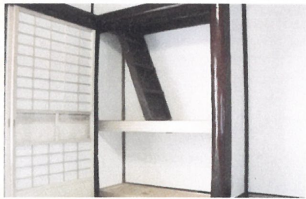
1 玉座の間

壁や天井が和紙貼りで仕上げられており、天井が他の部屋より一段高いのが特徴です。また、床の間・違い棚・付書院が備わった書院造となっており、蔵座敷の中でも最も格の高い部屋となっています。



2 火事の焼け跡

白河では大火が度々起こり、明治天皇の巡幸(明治14年(1881))の前後(明治10年(1877)、明治15年(1882))にも起きています。この焼け跡がいつのものかは特定できませんが、梁の一部が炭化しており火事の名残と考えられます。



3 隠し階段

和室小屋裏への跳ね上げ階段。押入れの天井に階段が収納されるようになっています。小屋裏部屋の用途は不明ですが、床が荒床仕上げであり、倉庫として使用されていた可能性が考えられます。



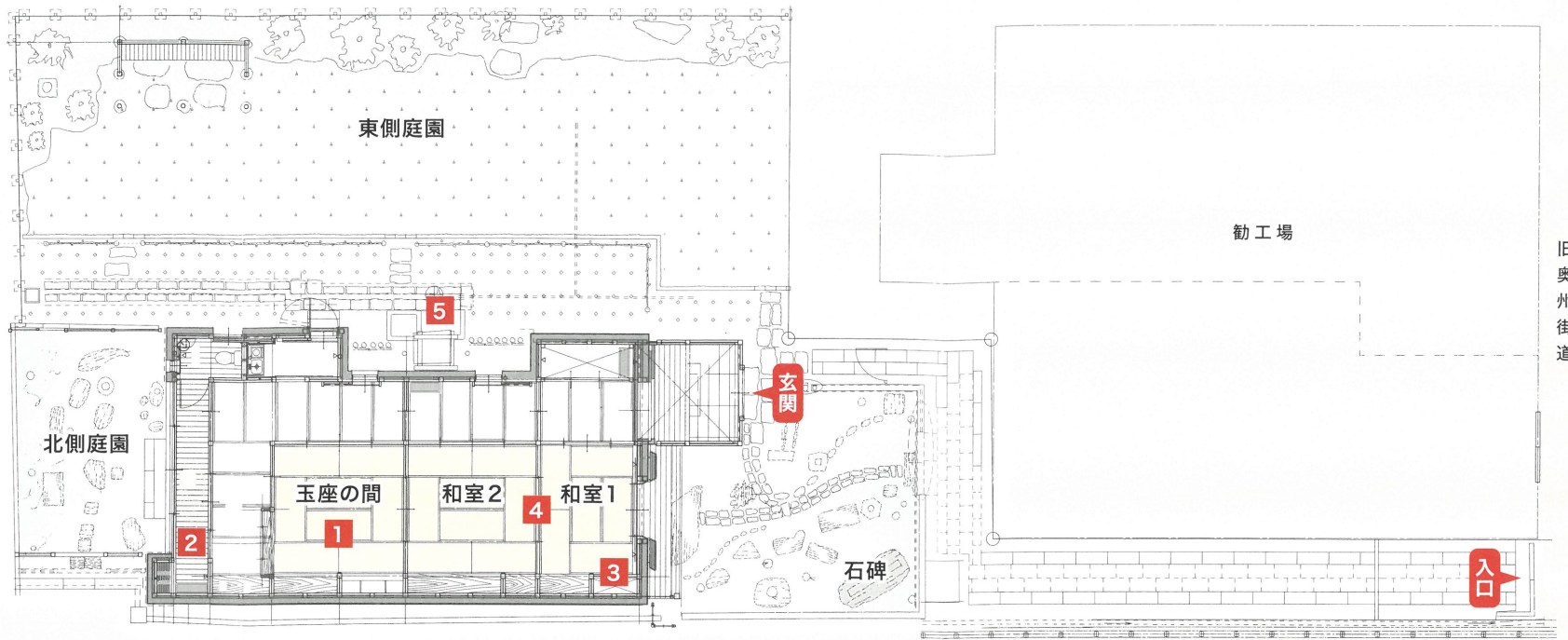
4 矢羽根天井

和室の天井板は矢の羽根のようになっています。和室1、2の二部屋に採用されています。



5 つるべ井戸(明治天皇御膳水)

明治天皇が東北巡幸で休憩・宿泊した際に、この井戸の水が供されました。井戸は深さが約9mあり、当時からつるべが使われていました。



〔棟札の文字〕
文化元年 甲子年 二月五日始
六月七日建前
阿八日棟上 大工棟梁 永井宗吉 吉有良
柳下丹右衛門知宣



釘隠し金物



石碑(書は東郷平八郎元帥)